

R 8 高島地域 農業・農村の概要

- 高島地域の農業は、平坦地では水稻を中心に栽培されているが、近年、担い手の規模拡大や農地集積に伴い、労力分散と高収益化を図るため、麦・大豆を取り入れた経営が増えている。丘陵畑地では野菜、樹園地では柿など適地適作による特産栽培も行われている。
- 一方、大規模な肉牛肥育や酪農経営など畜産業も盛んであり、たい肥を活用した耕畜連携も行われている。
- 観光客が多く来訪する地域であることから、景観をはじめとする地域資源を活かした都市住民との交流や観光農業への取組が進められている。
- また、耕作放棄地を中心に栽培面積が拡大したオリーブの特産化による地域活性化も進められている。

◆データで見る『高島の農業・農村』

・農業産出額	61.6 億円	(R5)
・経営耕地面積	3,835 ha	(農林業センサス2025)
・農業経営体数	1,046 経営体	(")
・認定農業者	284 経営体	(R7.3)
・集落営農組織	32 組織	(R7)
・サービス事業体	1 事業体	(R7)
・担い手集積率	72.8 %	(R8.3)
・圃場整備率	86.7 %	(R7)
・農業水利施設	用排水路 580km	・基幹施設 45か所(R7)
・世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策 農地維持・資源向上	6組織 106集落	3,579 ha (R7)
・中山間直接支払交付面積	650.3ha	(R7)
・魚のゆりかご水田米認証面積	14.6ha	(R7)
・環境こだわり農産物認証(主食用水稻)	1,006ha	(R7)

普通作物

水稻	3,040 ha	(R7)
麦	223 ha	(R7年産)
大豆	215 ha	(R6)

野菜 (R7.3、いちごはR7.6)

いちご	0.9 ha	20.0 t
まくわ	4.0 ha	21.5 t
だいこん	10.6 ha	384.2 t

果樹 (R7)

かき	21.1 ha	168.0 t
くり	49.6 ha	13.4 t
オリーブ	6.2 ha	0.1 t
ぶどう	2.8 ha	12.6 t
いちじく	1.1 ha	5.7 t

畜産 (R7.2.1)

乳用牛	3戸	447頭
肉用牛	5戸	4,347頭
採卵鶏(*)	3戸	18,500羽

(*)100羽以上飼養者



多様な担い手による「日本一環境と笑顔が循環する水田農業」をめざして

◆担い手の**効率的な農業経営の実現**に向けて

集落を超えた担い手間の自主的な話し合いを促し、地域計画を見直すことで、農地の集積・集約化を推進します。



農地集約に向けた話し合いの場の設定



農業組合における農地貸借の仕組み検討

◆関係機関と連携した**新規就農者確保・定着**に向けた仕組みの確立

関係機関が連携した担い手候補者を育てる仕組みが円滑に機能するよう支援し、着実に担い手候補者が育成できるようにします。



研修カリキュラムの試行



就農フェアへの出展

◆自然環境との共存を目指した**水稻有機栽培等**の推進

関係機関が連携しオーガニックビレッジの施策やJAの有機部会を活用して、水稻有機栽培の啓発、研修会等の開催、技術指導、販売先の確保支援により日本で最も自然環境と共存する地域となることをめざします。



有機農業推進チーム会議



有機栽培に向けた乗用型水田除草機の実演会

高島ならではの「ヒトを巻き込む」園芸産地の育成

◆「ヒトを巻き込む」特徴ある園芸産地・組織の育成

関係人口の増加と、多様な経営体・組織が外部人材の受け入れができる体制整備を支援します。



ブドウ新規栽培希望者向け説明会



援農隊の仕組みづくり（柿）



現地研修会（マクワ）

◆多様な販路・販売形態の確立

組織やコミュニティを通じた共同販路の検討・創設、既存産地での高品質規格商品や加工品の開発を支援します。また、組織・経営体の情報発信力を強化するとともに、体験を軸とする観光受入体制の整備を支援します。



オリーブ商品開発促進イベント



ブドウ販売部会立ち上げ支援

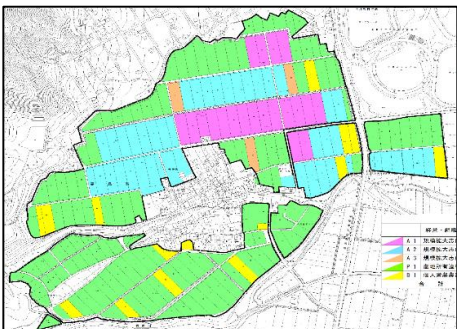


みおしずく目合わせ会の開催

持続可能で魅力ある農業・農村の振興

◆農地の利用条件整備や水路の整備更新で効率的な農業経営

担い手への農地の利用集積・集約を推進し、生産効率の向上や高収益作物の導入拡大等が可能な農業基盤を整備することで、大規模で安定した農業経営の実現を支援します。



梅原地区 令和10年の集積集約計画図



水はけの悪い水田を乾田化



老朽化した水路を改修

持続可能で魅力ある農業・農村の振興

◆農山村滞在体験から関係人口の創出・移住者の増加を図る

空き家や農家民宿などを活用し、次世代を担う学生や働き盛りの世代を対象に農村地域に滞在する体験を提供します。関係人口を生み出し、リモートワークを活用した都心部との二拠点居住・定住にも取組み、移住・定住する人の増加につなげます。



在原地域みなさんと学生の交流会
農山村版ワーキングホリデー 在原地区



稲刈体験の様子



炭焼き体験
朽木雲洞谷地区

◆農村地域の防災・減災対策の推進

治水上危険がある農業用河川工作物の改修を実施することで河床流出等による災害を未然に防止します。



大雨により旧農業用水取水堰が崩壊（施工前）



鴨川地区農業用河川工作物応急対策事業
落差工（施工完了後）

耐震性の向上や老朽化したため池を改修し、決壊による災害を防止することで、地域住民の暮らしの安全と農業用水の安定供給を確保します。



淡海地区ため池耐震化事業
堤体改修工事中の状況

◆農業用水路等の整備を図り農業基盤を支える

現施設を有効に活用していくため、機能保全計画に基づき補修・補強、更新の対策を効果的に実施し、農業用水の安定供給を図ります。



老朽化した用水路
（施工前）



安曇川左岸2期地区かんがい排水事業
用水路内面ライニング（施工完了後）



完成し満水状態の淡海湖